

ドイツの言語と文化 第1回 授業ガイダンス

1. 授業の概要と進め方

シラバス（本日は別紙としても配付）の説明。

シラバスの補足

- ・言語パートについては、いわゆる「語学の授業」を行う。回数が少ないため、ドイツ語の基礎中の基礎を学ぶ。授業中に扱いきれなかった項目については、概略を展望する。
- ・文化パートの前半（授業第4回～第8回を予定）については、講師が教科書の内容を解説していく。必要があれば、高校の授業内容（主に世界史）に立ち返って学習する。
- ・文化パートの後半（授業第11回～第14回を予定）については、前半で講師が行った方法にならって、受講者にレジュメをつくったうえで教科書の各章を口頭で解説してもらう。1回につき4～5人、一人分の持ち時間10～15分を予定している。終了後、講師が講評を行う。この口頭発表は成績に編入する。
- ・受講者が例年よりかなり多いため、上記の口頭発表を全員が担当できない可能性が高い。口頭発表ができなかった受講者には、学期末に2000字程度のレポートを提出してもらう。
- ・期末試験は、
 - （1）言語パート：授業で扱った内容の理解を問う、簡単な文法問題を出す。
 - （2）文化パート：教科書に関連する内容について論述してもらう。教科書は持ち込み可とする。

2. 教科書、参考書について

2-1. 教科書

林健太郎『ワイマル共和国：ヒトラーを出現させたもの』中央公論新社：中公新書、1963年（760円＋税）

- ・文化パートについてはこの教科書を用いて授業するので、必ず購入すること。
- ・講師が作成した解説用のレジュメは、毎回このような配付資料としてプリントする。
- ・文化パートの後半、受講者に作成してもらったレジュメは、LiveCampusで共有する（下記参照）。

言語パートについては、講師が独自に教材を配付する（ドイツ語圏のオンラインのフリー教材を適宜和訳したものなど）ので、教科書として購入が必要なものは無い。ただし、ドイツ語の学習を各自で続行したい場合、利用できる教材についてガイドする回を設ける。

2-2. 参考書

特に指定はしないが、高校の授業で使用した世界史の教科書、資料集などが保存してあれば、文化パートに際して参照しながら履修するとよい。

2-3. 辞書

言語パートではドイツ語の基礎中の基礎しか扱わないので、この授業では独和辞書は購入

しなくてよい。ただし、ドイツ語の学習を各自で続行したい場合、利用できる辞書についてガイドする回を設ける。

3. 受講（希望）者と講師の自己紹介

3-1. 受講希望者

氏名、所属、（あれば）希望の専門

この授業（ドイツの言語と文化）を選択した理由

3-2. 講師

講師の連絡先：tokan@nifty.com

- ・授業内容についての質問、要望などはメールでも受け付ける。
- ・講師からの「授業連絡」は、埼玉工業大学の LiveCampus システムを通じて行う。講師が LiveCampus に掲示を行うと、履修登録済み受講者のメールアドレスにメールが配信されるので、必ずメールをチェックすること。

＊ 課題や期末試験の連絡（日程、課題内容、出題範囲など）をこの方法で行うことになる。

＊ ＊ 休講の場合、講師ではなく事務が LiveCampus を通じて掲示、連絡する。

- ・後半の口頭発表のパートで学生が作成したレジュメについても、LiveCampus の「授業共有ファイル」を利用して共有してもらい、受講者全員が見られるようにする。

講師のウェブサイト：<http://hhasegawa.la.cocacn.jp/>

- ・授業内容についてのページを設け、進度を掲示したり配付資料を掲載したりする。授業用の URL は <http://hhasegawa.la.cocacn.jp/lecture/>。いまのところ昨年度までのもの（別大学）しかアップしていないが、なるべくその週のうちに更新する。

＊ 期末試験など一部の配付物については、著作権が問題となるテキストを含むため、ここでは公開しない。

- ・（講師の経歴や研究内容などについては、上記のほか、<http://researchmap.jp/hhasegawa/>でも公開している。）